

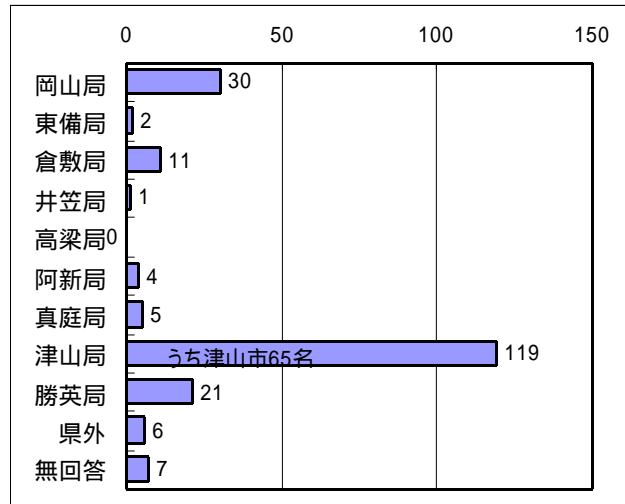
# 食の安全・安心に係る県民アンケート（集計結果）

平成15年11月8日（土）、リージョンセンター（グリーンヒルズ津山内；津山市）で開催した「食の安全を考える県民の集い」の参加者からいただいたアンケートの集計結果です。

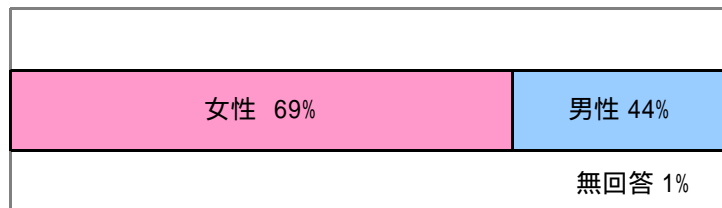
206 / 375（回収率55%）

## 参加者（回答者）の属性

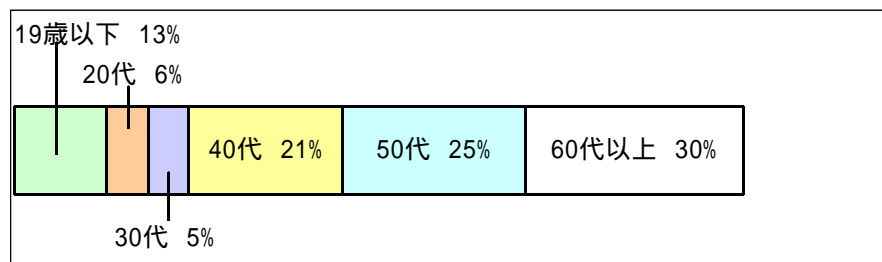
### 1 住所地（振興局管轄区域別）



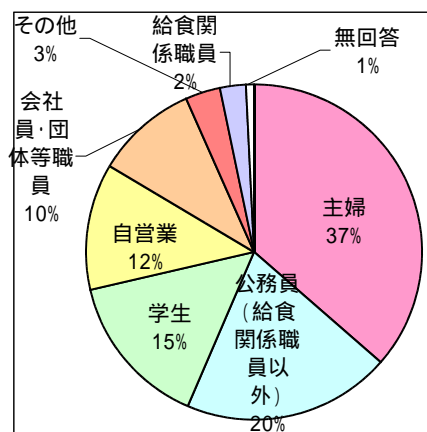
### 2 性別



### 3 年代

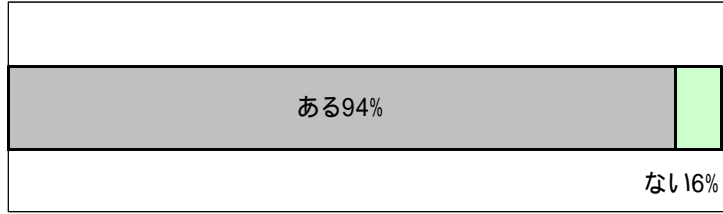


### 4 職業

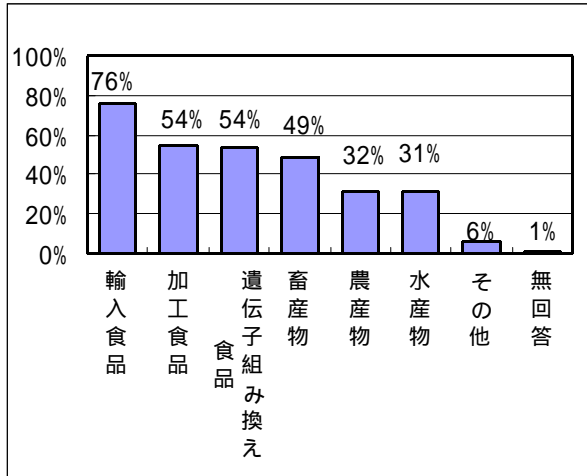


# 食に関する意識調査

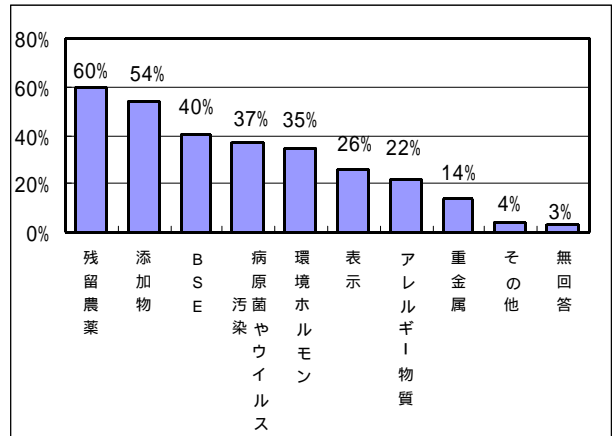
## 1 食に対する不安・不信の有無



### 1-1 不安・不信のある食品の種類 (複数回答)



### 1-2 不安・不信の内容 (複数回答)



#### \* 1 「表示」の具体的内容

(表示全般の信頼性について)

- ・本当のことがかかされているのか
- ・偽りの表示
- ・誇張表示

(産地表示に関することについて)

- ・産地(原産地)
- ・輸入品でも国内産の表示をしている
- ・生産地は正しいか

(期限表示に関すること)

- ・日付等
- ・期限が長すぎる

(その他)

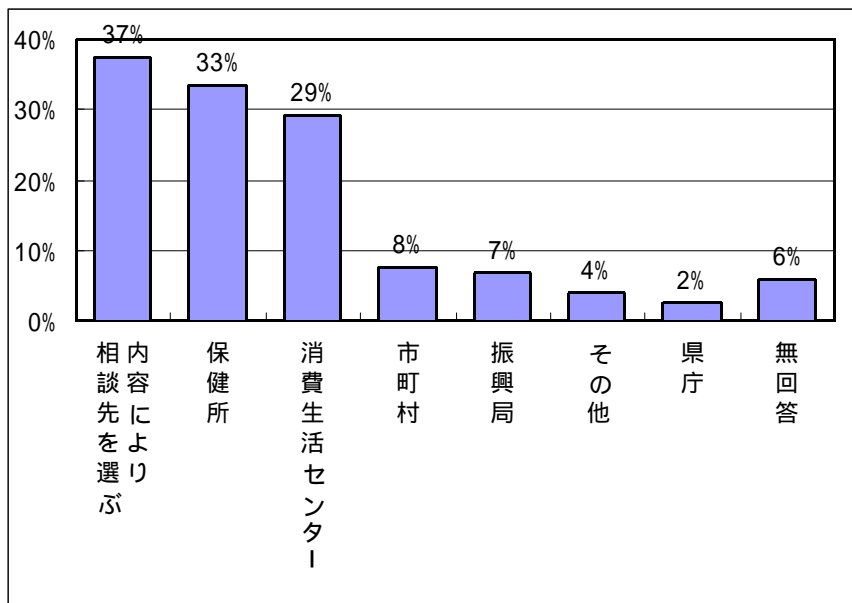
- ・廃棄物による汚染
- ・目安が入っていない
- ・はっきりしない
- ・簡単すぎて不明瞭、詳しく義務づけを

#### \* 2 「その他」の具体的内容

- ・こいの大量死
- ・生産者より商社の利益を求めようとするがために危ない
- ・輸入牛肉(アメリカ産) BSE
- ・産地添加物などのインチキ表示
- ・もうけ主義
- ・安すぎ
- ・企業業者の曖昧な態度
- ・商人のモラル
- ・全部

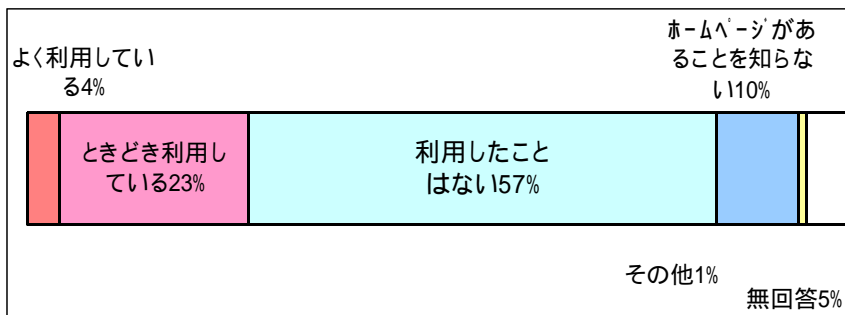
BSEに端を発し、広がった食に関する不安、不信であるが、BSEに対する不安・不信を感じる参加者は全体の40%と2/22に行った前回のアンケートの時より若干高まった。これは、開催直前に近県でBSE牛が発生したことの影響と推察される。さらに前回アンケートに引き続き、残留農薬、添加物に不安・不信を感じている参加者が過半数を超える結果であった。これら不安・不信を払拭するためには、生産者、流通加工業者自身の努力とともに、行政による監視指導や、消費者・生産者・流通加工業者へのリスクコミュニケーション(情報提供)が必要であると推察される。

## 2 食の安全・安心に係る相談先（行政機関）（複数回答）



内容により相談先を選ぶと答えた参加者が37%と最も多く、ついで保健所、消費生活センターという順番だった。保健所と消費生活センターは、「食の安全相談窓口」でもあることから、スムーズに相談対応がなされていると思われる。

## 3 食の安全・安心に関する岡山県ホームページ利用状況



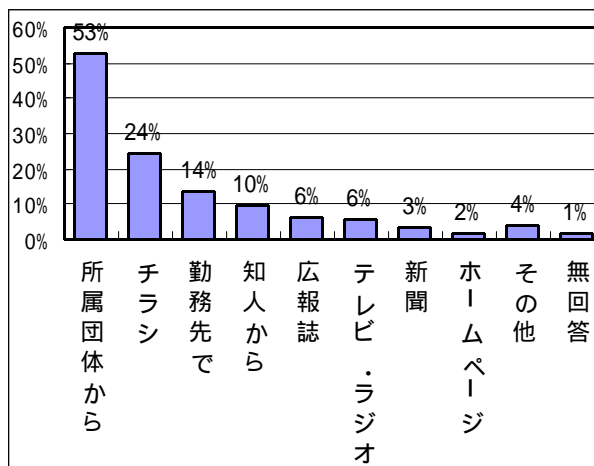
「その他」の具体的内容

- ・ホームページがあることを知らない
- ・ホームページは知っているが、食の安全に係る情報は知らない
- ・ネットなし

ホームページを利用したことがない、知らないと答えた参加者が約7割近くに達した。県民が求めている情報の掲載、時機をとらえた更新を続けるとともに、さらなる周知活動を行う必要があると思われる。なお、「利用したことはない」を選択した参加者を構成する年代別割合は、10代以下12%、20代5%、30代6%、40代19%、50代21%、60代以上37%だった。

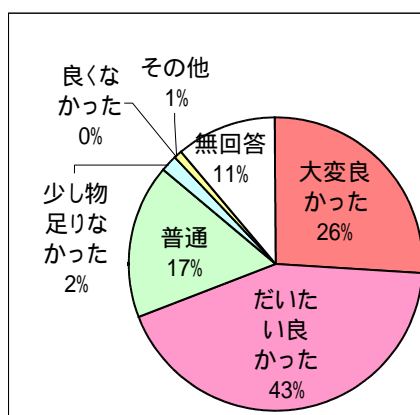
## 「県民の集い」について

### 1 「県民の集い」の開催を知った方法（複数回答）

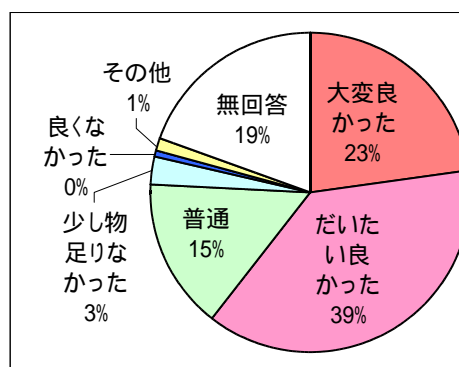


所属団体やチラシで開催を知ったという答えが多かった。一般県民の参加者を増やすためには、さらに広く呼びかけを行う必要があると思われる。一方、知人から知ったという回答数が広報誌やテレビ・ラジオからという回答数を上回っていた。マスメディアを通じた情報提供と共に、子供会、婦人会などの地域社会を巻き込んだ形での周知活動が有効ではないかと推察される。

### 2 「県民の集い」の内容に対する評価

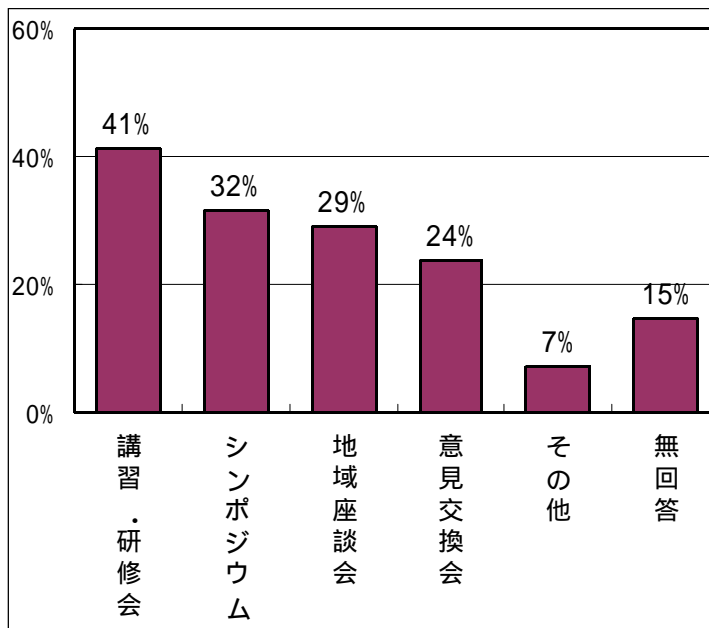


### 3 「シンポジウム」の内容に対する評価



「集い」「シンポジウム」とともに、「大変良かった」と「だいたい良かった」を合わせると、ほぼ7割の参加者が、好意的な評価を示した。

## 県民への情報提供の方法について（複数回答可）



「その他」の具体的内容  
・マスコミ、テレビ

県民への情報提供（リスクコミュニケーション）の方法として、講習・研修会、シンポジウム開催の要望が高かった。「県民の集い」もリスクコミュニケーションの1つとして一定の成果があったと推察される。さらに、地域座談会や意見交換会等の要望もあり、地域に根ざしたリスクコミュニケーションの必要性が示唆された。

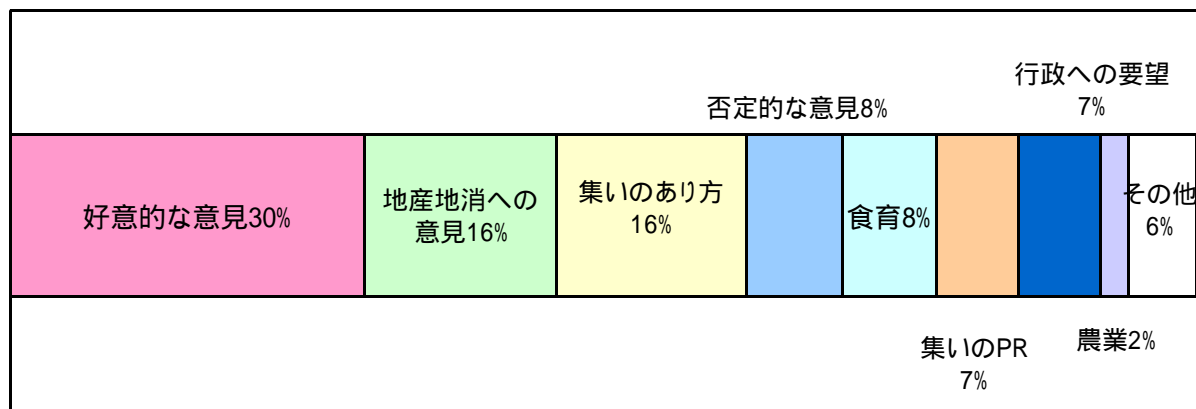
## 「自由記入欄」に記入していただいた主な意見・要望・提言など

「自由記入欄」に記入していただいた意見・要望・提言は、「県民の集い」について87件、行政への意見・提言・要望について72件の計159件でした。

大変申し訳ありませんが、意見多数のため全てを掲載することはできません。主な意見・要望・提言は次のとおりです。

なお、いただいた意見は、推進本部の今後の施策に活かしていきます。

### 1 「県民の集い」について



#### 好意的な意見・感想

- ・よかった
- ・勉強になった
- ・考えさせられた
- ・参考になった
- ・いろいろな意見を聞くことができた

#### 地産地消への意見

- ・地産地消について関心を持った
- ・地産地消はよいことだ
- ・地産地消を心掛けたい
- ・地産地消では安全は得られない

#### 集いのあり方についての意見

- ・「集い」のような機会をもっと多く、地域で開催して欲しい
- ・パネリスト等への要望
- ・集いの開催場所への要望、机、茶等の設備への要望

#### 否定的な意見

- ・話が難しい
- ・時間不足で掘り下げが不十分

#### 食育の関する意見

- ・食育（子供への食の教育）が大切だ
- ・伝統料理を見直したい

### 集いの PR

- ・ PR 不足
- ・ 幅広く広報するべき

### 行政への要望

- ・ 監視指導等の強化
- ・ 行政組織の体制整備
- ・ 意見の反映、わかりやすい説明（リスクコミュニケーション）の要望

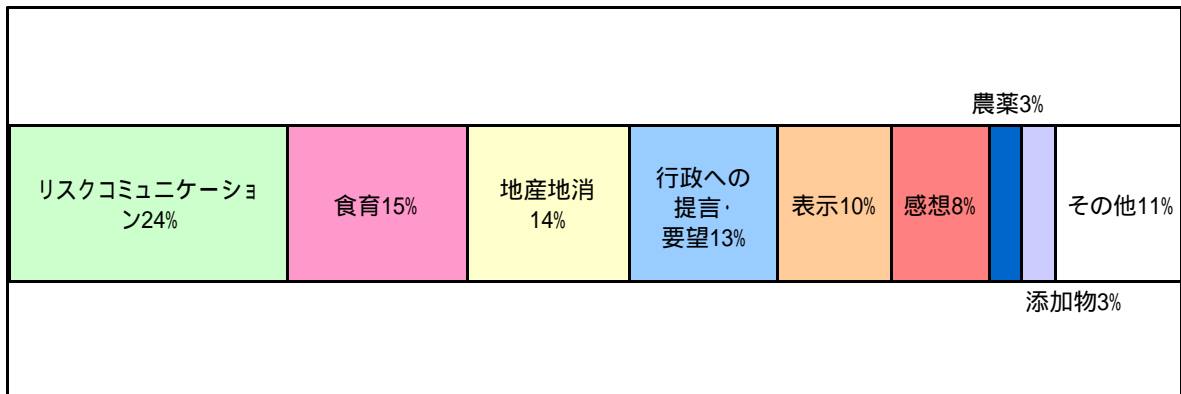
### 農業について

- ・ 農業の重要性

### その他

- ・ 試食・即売がよかった
- ・ 試食・即売の時間が短い

## 2 行政への意見・提言・要望



### リスクコミュニケーション

- ・ 正しい情報を早く提供して欲しい
- ・ 行政、消費者、流通、生産者で意見交換する場を設けて欲しい
- ・ 情報開示

### 食育

- ・ 食育の推進
- ・ 農業体験等を通じた食育
- ・ 伝統食を学ぶ

### 地産地消

- ・ 地産地消の推進
- ・ 地産地消についての情報を提供して欲しい
- ・ 地産地消を食育に取り入れて欲しい

### 行政への提言・要望

- ・ 監視指導・検査の充実強化
- ・ 行政の資質の向上

#### 表示

- ・適正な表示
- ・わかりやすい表示

#### 感想

- ・勉強になった
- ・いろいろな意見を聞いてよかった

#### 農薬

- ・農薬を使わないで欲しい
- ・農薬は不安

#### 添加物

- ・添加物を使わないで欲しい
- ・添加物は不安

#### その他

- ・モラルの問題等